

特集 その後どのように暮らしていますか？

こだわりの素材とシンプルな暮らし



特集 その後どのように暮らしていますか？

こだわりの素材とシンプルな暮らし

小金井市 | 木造一戸建て | 5邸(ご夫婦+お子様2人)



1

ストーリー

以前は社宅で暮らしていたというS様ご家族。「子どもも成長してきたので、家の中で自由に遊んだり走り回ったりできる環境にしてあげたい」——そんな想いから、お子様が幼稚園に入園するタイミングで、戸建て住宅への引っ越しを考えられていました。

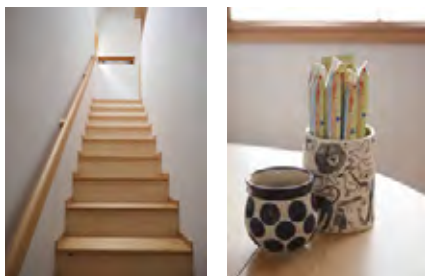
「建築士さんに設計してもらおうが憧れで、いろいろ調べていたら相羽建設にたどり着きました。家づくりははじめてで不安もありましたが、営業スタッフの豊福さんが土地と一緒に見に行ってくださいたり、多方面からのアドバイスを頂けたのがありがたかったです」とS様。土地探しから3ヵ月、ついに条件に合う土地が見つかり、シンプルでありながらご夫婦お二人のこだわりが込められた素敵な住まいが完成しました。

住みはじめてちょうど1年が経つ、4人家族のS様の暮らしぶりをご紹介します。



2階キッチン

2 素材へのこだわり



- | | |
|---|---|
| 1 | ヤジマのステンレスキッチン。2.ゆとりのある階段。3.粉ミルクの入れ物もおしゃれ。4.気持ちよく眠る次男くん。 |
| 2 | 3 |
| 4 | |



2階リビング

▲ 天井は杉材、床は桂材、壁はグレー寄りのホワイトカラーで塗装

明るい光が差し込む2階リビングは、家族が集まる家の中心部。アーコールのテーブルやアングルポイズの照明など、センスの良いインテリアが暮らしをシンプルに彩ります。そして、天井と床には、ご主人のご両親の出身地である山形県で採れた国産材を使用。「少し茶色

がかった床板にしたい」というこだわりのあったご主人は、なんと実際に山形県の材木屋さんまで行き、自身で材料を選ばれたそうです。木の色合いと家具の質感とのバランスが、程よく落ち着きのある空間を演出していました。また、S様の家は延べ床面積22坪という、このエリアでは

比較的コンパクトな住まいのため、回遊性のある間取りにしたり、逆に階段やトイレなどはあえて小さくまとめずに、ゆとりをもたせた設計工夫がされていました。上質感だけでなく、暮らしやすさも考えられた住まい。長男くんが広々楽しそうに家の中で遊んでいる姿に笑顔になりました。

3 暮らしの工夫



1階居室

▼ 使いやすさとデザイン

どの部屋もスッキリと整ったS様の住まい。その中でもちょっとした暮らしのアイデアがちりばめられていました。洗濯物は基本部屋干しという奥様のために、各部屋の天井に特注のアイアンハンガーパイプを取り付けたり、カーテンレールを使わずクリップや紐で布を吊るしてカーテンにするなど、見た目も素敵で実用的なインテリアの工夫。

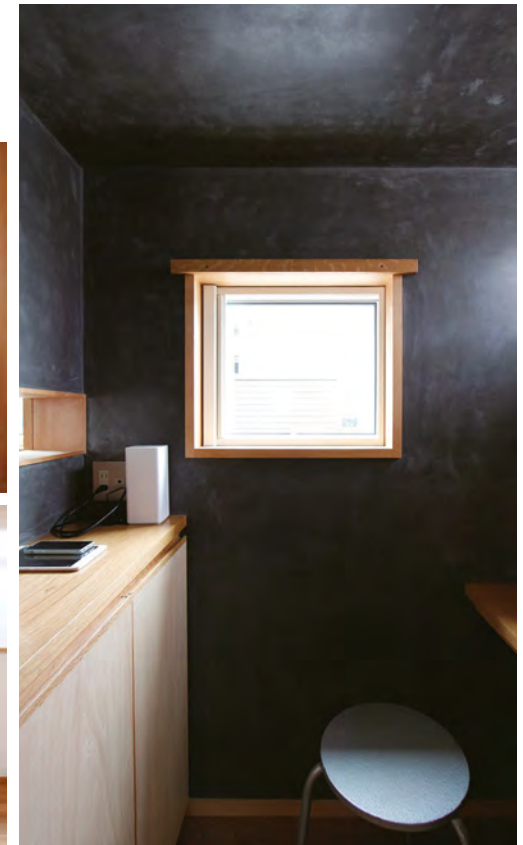


- 1 ステンレスクリップを使ってカーテンに。布は奥様の手作り。
- 2 赤川鉄工さんオリジナルの便利なアイアンハンガーパイプ。

統一感のある空間



- 1.大きめの黒タイルがある洗面室。
- 2.アングルボイズの壁付け照明が空間のワンポイントに。
- 3.将来的には間仕切りをして二部屋にもできる子ども部屋。
- 4.こもり感のある書斎。



全体の色合いに統一感がありながら、部屋ごとの素材や質感にちょっとした違いがあり、そこにまた心地良さを感じます。ご主人の書斎の壁面は、施工した左官屋さんも初の試みだったという黒のモルタル仕上げ。独特な空気感に魅了されます。

取材後記

この日は1年点検も兼ねた取材でした。家づくりを担当させて頂いた営業の豊福、設計の中村、現場監督の樋口も揃い、みんなでS様のその後の暮らしぶりをお伺いできたことがとても嬉しかったです。日々丁寧に過ごされているS様。ゆくゆくは新たに庭の植栽計画も考えられているということで、素敵なお庭ができあがることを楽しみにしています！（記：広報 吉川）



設計・施工：相羽建設／撮影取材・編集：豊福・中村・樋口・伊藤・吉川
ainohaバックナンバー <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>



特集 その後どのように暮らしていますか？

鳥のさえずりと緑に包まれる家



特集 その後どのように暮らしていますか？

鳥のさえずりと緑に包まれる家

東京都東村山市 | 木造一戸建て(建売分譲) | K邸(ご夫婦+お子様1人)



1

ストーリー

今回で紹介するのは、入居から約1年経ったK様の住まい。“「人」と「こと(暮らし)」を大切に
にする家”をコンセプトにした建売の提案住宅「ヒトコトの家」を購入し、ご夫婦と幼稚園に
通う娘さんの3人で暮らしていらっしゃいます。登山などアウトドアが趣味のK様ご一家。田
舎暮らしに憧れつつも、ハードルが高いと感じていました。そんな中、狭山公園をはじめとし
た豊かな自然と、交通利便性とのバランスが取れた“ちょうどいい田舎”、東村山の環境を知
り、惹かれるように。物件を探中で相羽建設と出会いました。奥様は駅から距離があり、
スーパーが近くにないことを気にしていましたが、現地を訪れると意見が一転。裏山の緑に
囲まれたロケーションに「これは引越す価値があると感じました」とご夫婦揃って一目惚
れ。「全てを飛び越えるものがあつたんです」(ご主人)。四季が移ろい、エントランス脇の草
花や庭先の野菜がすっかり馴染んだ住まい。お気に入りポイントや現在の暮らしぶりを伺い
ました。



2

バルコニーと一体の 2階リビング

K様邸は1階が個室、2階がLDKと水廻りという間取り。リビングからつながるバルコニーは約5帖もあり、もうひとつの部屋のよう。天気の良い日にはテーブルを出して食事をしたり、ハンモックを張ってくつろいだりと、+αの空間を満喫していらっしゃいます。「前の住まいより床面積は減りましたが、こちらは無駄がない間取りで、前より広々過ごせています」と奥様。他の建売住宅とは違い、細部まで工夫が見て取れた点も購入の決め手となりました。また、自然素材でつくられていることも大きかったと言います。娘さんは幼稚園の先生に「木の家に引っ越したんだよ」と自慢気に話していたのだとか。ご主人は凹凸がある無垢のフローリングがお気に入り。「裸足だと感触が気持ちいいんです。冬でも暖かいので裸足のまま過ごせます」。以前は2007年竣工の建売でしたが、冬は外と同じ気温で寒かったそう。「この家は冬、エアコンを切ってもしばらく暖かいです。夏は一度エアコンを付けて、窓を閉め切っていた方が涼しいですね」とご主人。窓が多い住まいでも結露せず、快適にお住まいです。

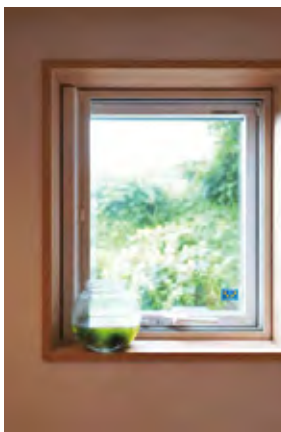


お気に入りの場所を尋ねると「ここ!」と教えてくれた娘さん

- | | |
|---|---|
| 1 | 1.屋根裏収納のお陰でLDKは広々。2.キッチンの造り付け収納は市販ケースがびっったり。3・4・5.キッチン前は絵本コーナー、側面は娘さんの作品ギャラリーに。 |
| 2 | 3 |
| 4 | 5 |



3 住まいのみどころ



1.大きな窓に面したダイニングスペース。2.小窓からも緑を望みます。3.ハンモックに寝転べば森林浴気分。4.窓の外に見えるのは楓。



▲
家のどこからも
光と緑を感じる

水まわりも含め、すべての部屋に窓があるのもお気に入りポイント。ダイニングスペース横の窓の外には緑地が広がり、梅や紫陽花など、色とりどりに変化する景色を楽しめるそう。ウグイスやキツツキなど小さなお客さんも、季節の変化を教えてください。

豊かな自然も 家の一部



コロナ禍の外出自粛時には「周りにお散歩コースがあってよかったです」と奥様が振り返ります。庭の畑ではミニトマトや枝豆、テールビーツなどを栽培。娘さんは自分で採ったものだとよく食べるのだそう。畑にどう手を加えていくかが今後の楽しみです。



1.少しぬかるんだ裏山の道も娘さんは慣れて。2・3.近隣では梅や山椒の実などが採れるそう。この日はよもぎを収穫。4.庭の畑は畝がある本格的な造り。



取材後記

K様邸に着き、車から降りた瞬間、鳥のさえずりが、都心からアクセスがいい場所なのにと驚きました。お散歩ができない雨の日は、LDKの広い壁にプロジェクターを写して映画を見たりして過ごさそう、周りの環境や住まいを満喫している様子が伺えました。
(記：ライター大川)



設計・施工：相羽建設
撮影取材・編集：伊藤・大川・前田・猪股
ainohaバックナンバー <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>





特集 その後どのように暮らしていますか？

緑が包む小さなうち

特集 その後どのように暮らしていますか？

緑が包む小さなうち

東京都東久留米市 | 木造一戸建て | F邸(ご夫婦+お子様3人)



1

ストーリー

雑木の樹々に囲まれて、まるで森の中に佇むような可愛らしい住まい。こちらに住みはじめてから2年が経つ、5人家族のF様の暮らしぶりを伺いました。

以前は23区内の職場近くの集合住宅に住んでいたというF様。お子様が生まれたことと、"自分で自宅の設計をしたい"という奥様の想いから、土地探しからの家づくりがスタートしました。「この家のすぐそばに、湧水のあるとても綺麗な川が流れているんですよ。土地探しをしているときに偶然見つけて……実はそれが決め手でこの土地を購入しました。周りは畑や緑も多く、小さな子たちが川遊びできる広場もあり、こんな環境で子育てできたら良いなあと思って」と笑顔で当時を振り返る奥様。



引込み窓により外の景色をより身近に感じられる1階リビング

2

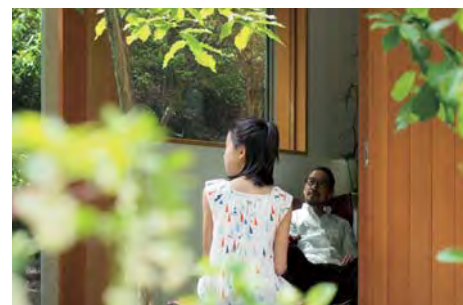
暮らしのサイズ

デザインや機能性の前に、家族の生活に寄り添うことを大切に考えたい……そんな想いを持ってプラン設計をした奥様。家を建てるにはとても環境の良い立地でしたが、F様の家族構成からするとこの土地は少々コンパクトなサイズでもありました。そのため、住まいの複数の機能をひとつの空間に納めたり、駐車場をつくらない分、外部の景色を取り入れられる大きな窓や、ゆったりとした庭づくりをしたり。様々なアイデアと工夫が盛り込まれていました。「試行錯誤の連続でしたが、知らなかった建築の知識や現場のことまで、相羽建設のみなさんと一緒に協力しながら進められたことに感謝しています」。

新たな暮らしがはじまると、緑の中に馴染んだ住まいを見て、ご近所さんがよく声をかけてくれたそうです。「今ではご近所さんとも仲良しになりました。畑を持っている方が子どもたちに芋ほり体験をさせてくださったり、川遊びができたり、実際の土地のサイズ以上に豊かに住まわせて頂いてますよ」。



▲ 子どもたちが安心して川遊びできる、自宅近くの湧水のある川。



ainoha
— アイバノコトノハ —



特集 その後どのように暮らしていますか？

山道の景色をきりとって

take free
ご自由にお持ち帰りください

2016 * July vol.55

特集 その後どのように暮らしていますか？

山道の景色をきりとって

北区 | S 邸(ご夫婦2人) | 木造一戸建て



1

家づくりストーリー

雨がやんだあとのしっとりとした空気感の中、北区にお住まいのS様ご夫婦の家を訪ねました。奥様のご両親から引き継いでずっと暮らしてきた家建て替えて、今の家に住みはじめてちょうど10年が経ちます。

もともと共働きだったお二人。「定年後は家にいる時間が増えるだろうから、過ごしやすい家になりたい」と思って家づくりを考えはじめたんです。そんな中、ちょうど本屋で目に留まったのが建築家、永田昌民さんの『大きな暮らしができる小さな家』という本でした」と、S様はその内容にとっても共感。敷地いっぱい家に建てるのではなく、庭の緑を取り入れつつ暮らしに必要な分だけの居住空間を希望し、延床面積25坪ほどのちょうどよい住まいが完成したのです。



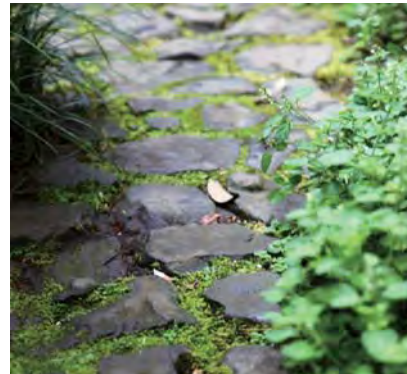


2

山荘のような景色

S様の家のみどころの一つは、なんといってもリビングから眺める緑いっぱいの庭の景色。深緑の中に少しゴツゴツした敷石の通り道があり、まるで山荘にいるかのような感覚。ご夫婦ともに山の中を歩くのが大好きで、お二人が初めて出会ったのも山歩きの会だったという素敵なお話もいただきました。庭づくりをする際に、造園の方にそのことをお伝えすると、山の中の雰囲気に合わせて植栽選びをしてもらえ、山道の風景をきりとったような庭ができあがりました。

今では庭のお手入れを日々楽しまれているという奥様。「お庭が完成したら鳥がよく遊びに来るようになったんですよ。それに自然と風に乗ってやってきた種から芽が出てくることもあって、何が育つか楽しみで♪」と笑顔でお話してくださいました。ちょっとした日々の変化を身近に感じながら、ゆったりとした時間が流れているS様の暮らし。



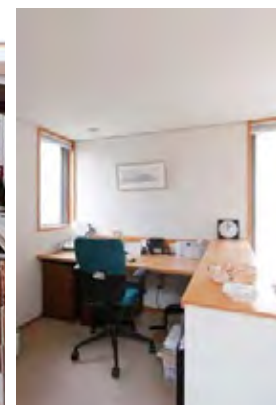
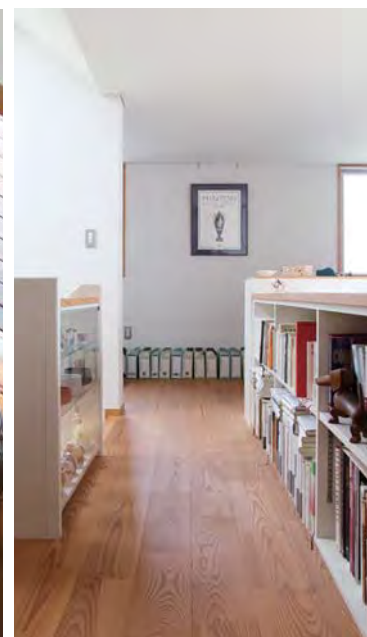
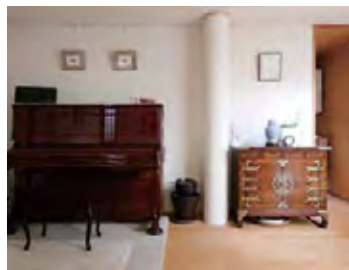
*造園：彩苑さん

3

1階リビング・ダイニング



1階はLDKのワンルーム。吹抜けのダイニングは明るい光が差し込む開放感あるスペース。一方リビングは天井を低めにしたちょっと落ち着いた空間。窓辺の椅子に座って庭を横目に「新聞や本を読んだりCDを聞いたりするのが幸せ」と奥様。他にも古道具や奥様のお父様の家の襖を加工してつくった大きな額装など、部屋の中には素敵なポイントがたくさん！



4

2階スペース



階段を上ると左には半個室になったご主人の書斎。吹抜けから1階や庭の様子眺められます。そして廊下横の壁を利用した棚には本がたくさん並んでいました。階段横にはショーケースがあり、奥様が香港出張の際に購入したという嗅ぎタバコの入れ物や奥様のお父様が使っていた茶器などが飾られていて、ここだけ小さな美術館のよう。収納や飾り棚など、ちょっとした工夫で廊下が華やかになっています。

取材後記

ちょうどこの日はS様の家の10年点検。われらがメンテナンス・リフォーム部の佐々木も取材に同行しました。家も人と同じで定期的な健康診断を行うことで、万が一のことがあっても早期発見で防ぐことができます。ずっと住み続けていく家だからこそ大事にしたいものです。「毎年点検に来てもらえるのでとても安心」と家を大切に思うS様の言葉に、なんだかとても温かい気持ちになったのでした。(記:広報 吉川)



取材: 佐々木・伊藤・吉川
取材後記はコチラ→ <http://ameblo.jp/ainohablog/>





▲ ガラスと鉄のテーブルはご主人のデザイン

生活しながら 足していく



以前はワンルームだった2階寝室は、この春中学生になったお姉ちゃんのために、DIYで間仕切り個室がつけられていました。「限られた空間で、必要な時に必要な部分を自分たちで考えて変えていく。それが家族のテーマになるように楽しみながら暮らしたい」というF様。



1:2階寝室。2:ご主人自ら間仕切り工事で作った個室。3:間仕切りした壁面を本棚に。4:コンパクトな洗面台。タオル掛けはご主人特注金物。

3 暮らしの工夫



◀ カラフルな和風柄が可愛い、奥様の陶芸作品(オーナメント)



▶ ご主人特注の、梁に掛けられる物干し金具&ポール

▲ 場所を兼用する

延床面積約21坪の中に、家族5人が暮らすF様の住まい。リビング・ダイニング・キッチンを一室に納め、洗面・トイレも一つの空間にまとめるなど、場所を兼用した設計になっています。また、建築金物会社に勤めるご主人特注の、キッチン棚板や無垢のタオル掛けなどのオリジナル金物が空間のワンポイントに!



取材後記

足りないものは自分たちでつくろう!というF様のアイデアと、コンパクトな空間だからこそこの暮らしの工夫が本当に素晴らしく、クオリティの高さに驚くばかりでした!そして何よりご家族みんなが楽しそうに日々を過ごされている様子が伝わってきました。今後お庭の中に、まちの人たちが立ち寄れるような陶芸工房兼ギャラリー小屋をつくる計画もされているそうです。とっても楽しみです!(記:広報 吉川)



設計:お施主様・相羽建設/施工:相羽建設
撮影取材・編集:伊藤・吉川 ainohaバックナンバー <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>





特集 その後どのように暮らしていますか？

奥行を愉しむ長方形の家



特集 その後どのように暮らしていますか？

奥行を愉しむ長方形の家

杉並区 | S 邸(ご夫婦2人) | 木造一戸建て



1

家づくりストーリー

家の中を初夏の風がさーっと心地よく抜け、午前の柔らかい光に包まれたリビング。
杉並区Sさんのお住まいは、なんと言ってもその間口に特徴があります。家の前に立つとそのコンパクトさに「狭小住宅」の文字が浮かびますが、玄関を入ったとたん、その印象はガラリと変わります。視線が抜け、風が通り、家のどこにいても光が差し込み、狭さ暗さはまったく感じません。

「この家に暮らすようになって、とにかく健康になりました!」と奥様。
以前のお住まいでは室内環境が合わずアレルギー症状があったものの、引っ越してからすっかり症状が軽くなり活動的になりました!と、とても明るい表情で現在の暮らしぶりをお話ししてくださいました。



2 直感から生まれた 心地よい空間

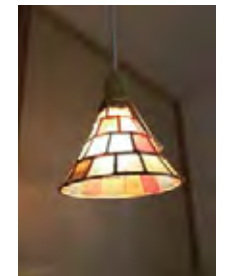
社宅の老朽化や奥様のアレルギー悪化で考え始めたSさんの住み替え計画。出会ったのは間口4.5m×奥行18.2m、奥に細長い土地でした。直感的に「風がぬけそうだな」と購入を決意。その直感が正しかったことを取材をしながら肌で感じることができました。駐車スペースは作らず

に南側に庭を設けたことで、家をトンネルのように風が抜けていきます。家の間口約3.3m×奥行13m。部屋と部屋をつなぐ空間も、ソファや本棚やお気に入りの雑貨が並ぶコーナーとして活かされており、家の中のあちこちに心地よさそうな居場所を見つけられます。お友達が遊

びに来た時に「広く感じるね」とか「上手に作ってもらったね」と言われますと嬉しそうに話してくださいました。大きな開口に接していない中間部にも吹き抜けを通して、ロフトのトップライトから光が届きます。見上げると土佐和紙の壁にきれいな陰影をつくっていました。

素敵なお小物が
たくさん！

友人などの作品や旅先で集めた雑貨が家のあちこちに飾られ、シンプルな空間を彩っていました。写真下：光の入り方で変わる吹き抜けの陰影がきれいでした。



3

住まいの見どころ紹介



▲ 好きなことを好きな場所で

読書がお好きなご夫婦。1階からロフトまで各階に本棚が設置されていて、家中どこでも本を読むことができます。以前のお住まいでつかわれていた大切な本棚も、あらたな住まいにそのまま馴染んで本も嬉しそう。その日その時の気分で、お気に入りの場所を見つける楽しみもあります。書斎から眺める庭に季節の移り変わりを感じ、俳句を嗜まれるようになったそうです。

お気に入りの水廻り ▶

お気に入りの場所を伺うと、ご主人はなんととっても「お風呂」。2方向に窓があり坪庭を眺めながら浸かると、日々の忙しさをリセットできるそう。住み始めて5年が過ぎた今も毎日幸せだと感じる場所。トイレには奥様が好きなマジョリカタイルがアクセントになっていました。



◀ 定年後の楽しみは

晴れた休日には、庭で朝御飯を食べたり、木陰で読書を楽しんでいるというご主人。定年後は、今は全くできない料理を習い、夫婦で一緒に料理と庭作りができればと、この家での楽しみを思い描かれています。とても嬉しくなりました。

取材後記

本棚に収められたたくさんの本の中には、奥様のおじいさんの著書「これからの生活と国民家具」(昭和16年発行)や、おばあさまとの思い出を親戚でつづり装丁を施した自主製作本、アルバムなど、家族の歴史と思い出がいっぱい詰まっていました。家族の物語が収められた本棚はまるで宝箱のようで、とても素敵でした。(記:総務経理 相羽)



取材:吉川・相羽 取材後記はコチラ→ <http://ameblo.jp/ainohablog/>